

# 福島県における放射性セシウムを含む捕獲イノシシ の適正処理に関する技術資料 (概要版)

平成30年10月

福島県環境創造センター  
国立研究開発法人 国立環境研究所

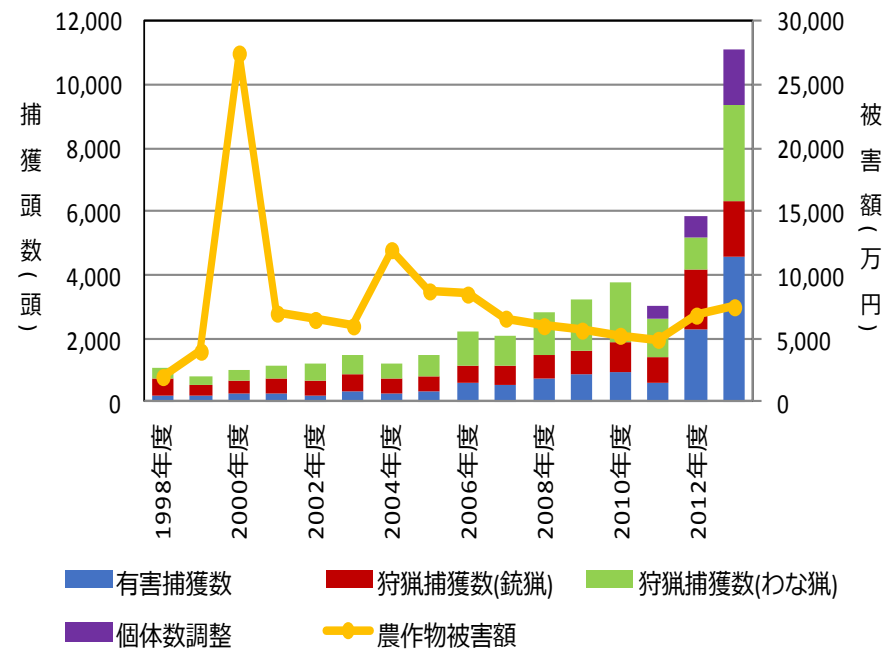
# 福島県内の捕獲イノシシの現状

## ●福島県イノシシ管理計画 ＜平成27年5月29日～平成32年3月31日＞

イノシシの積極的な管理を進めることにより、イノシシの個体分の安定化を図りつつ農業被害を低減することを目的として策定。

イノシシ管理計画期間である平成31年度までに49,000頭から安定生息数である5,200頭まで減少させるには、年間の捕獲数を試算すると、毎年17,000頭～18,000頭の捕獲が必要となる。

福島県内のイノシシ捕獲頭数及び農作物被害額

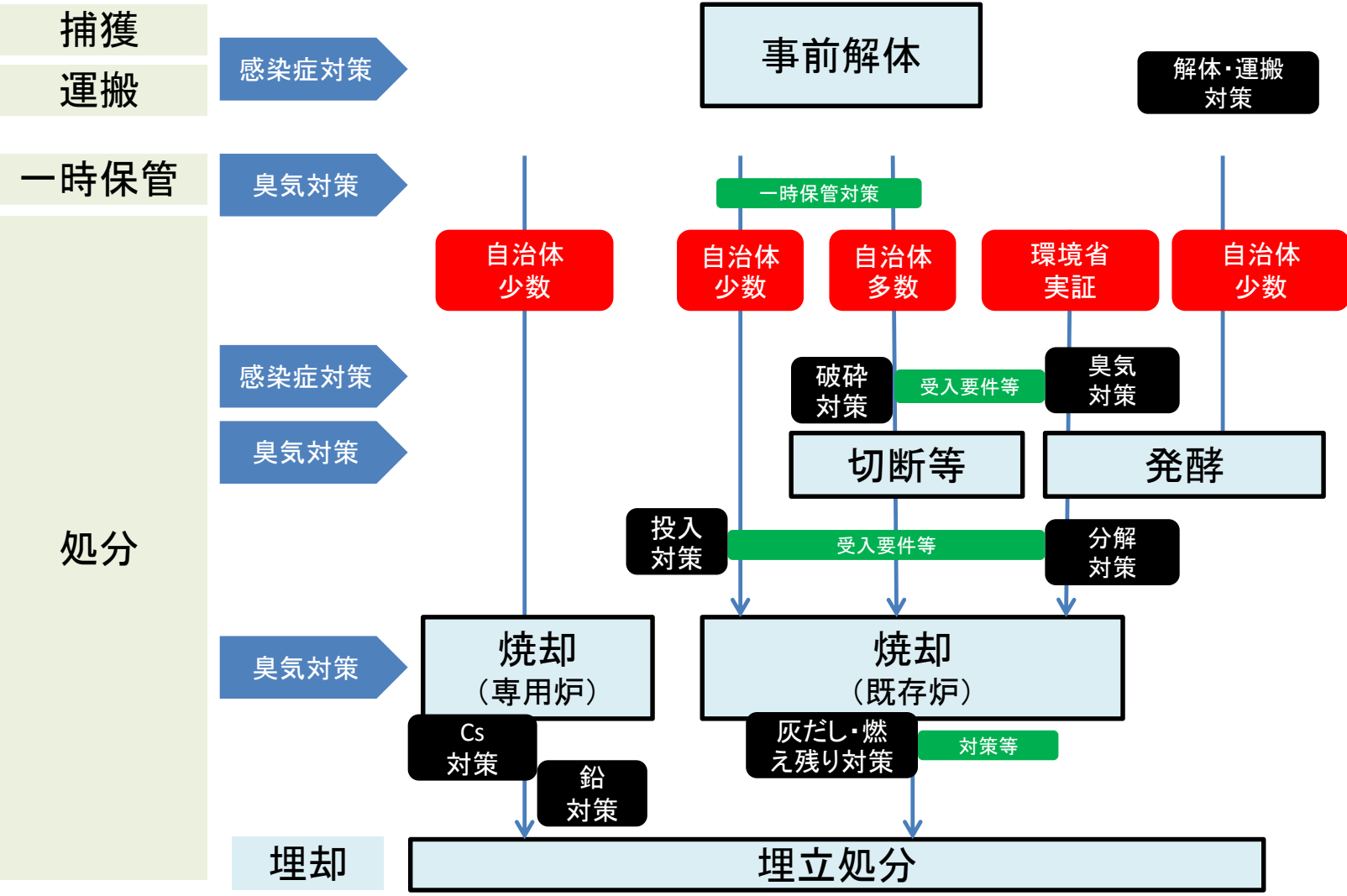


福島県イノシシ管理計画をもとに作成

### 捕獲課題

- 放射性物質の影響による鳥獣の出荷制限
- 有害鳥獣による農林業被害等の深刻化
- 狩猟者の高齢化・減少

# 捕獲イノシシの処理の流れと検討事項



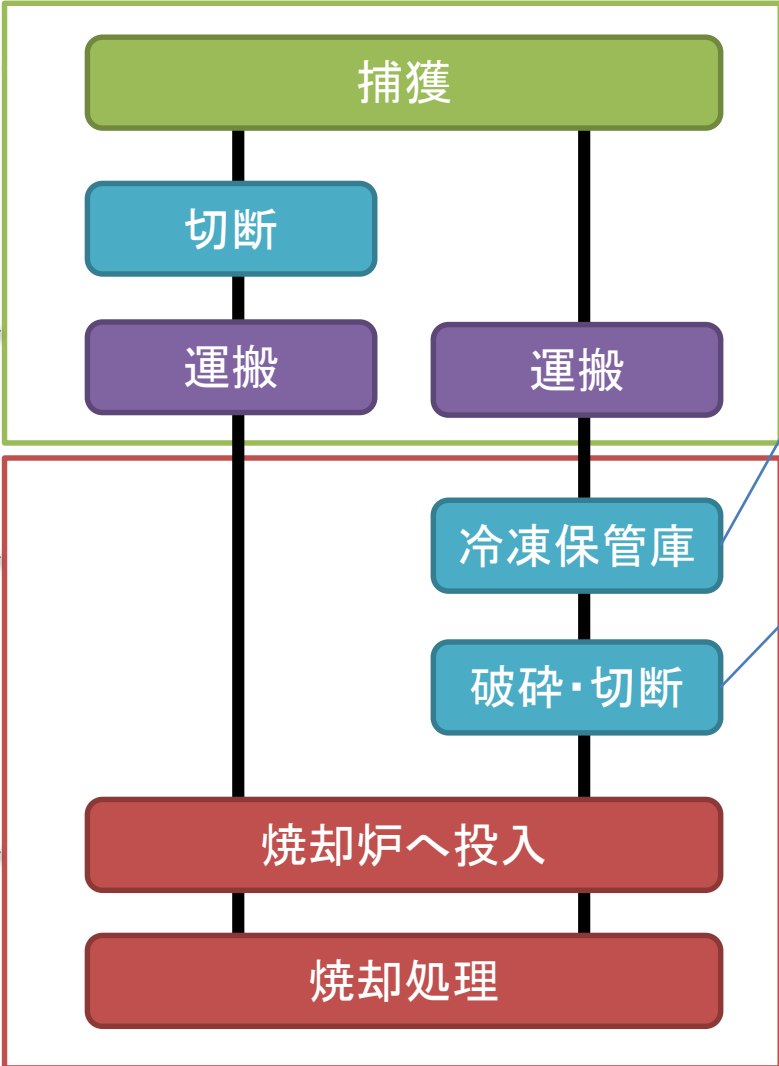
処理システム

「捕獲鳥獣の適性かつ効率的な処理システムの構築に関する研究」国立環境研究所等

関連する技術資料・マニュアル類

# ①切断した個体の既存焼却炉への受け入れ

- 感染症対策**  
作業を行う際はマスク・ゴム手袋・長袖・長ズボン・長靴を装備
- 臭気対策**  
運搬時にはビニール袋に収納
- 感染症対策**  
焼却施設の切断・破碎機を用いる場合は、切断前に冷凍保管が必要
- 放射性Cs対策**  
混焼のため放射性Csの寄与は微小。高度な排ガス処理により問題なし



捕獲者



冷凍保管されたイノシシ

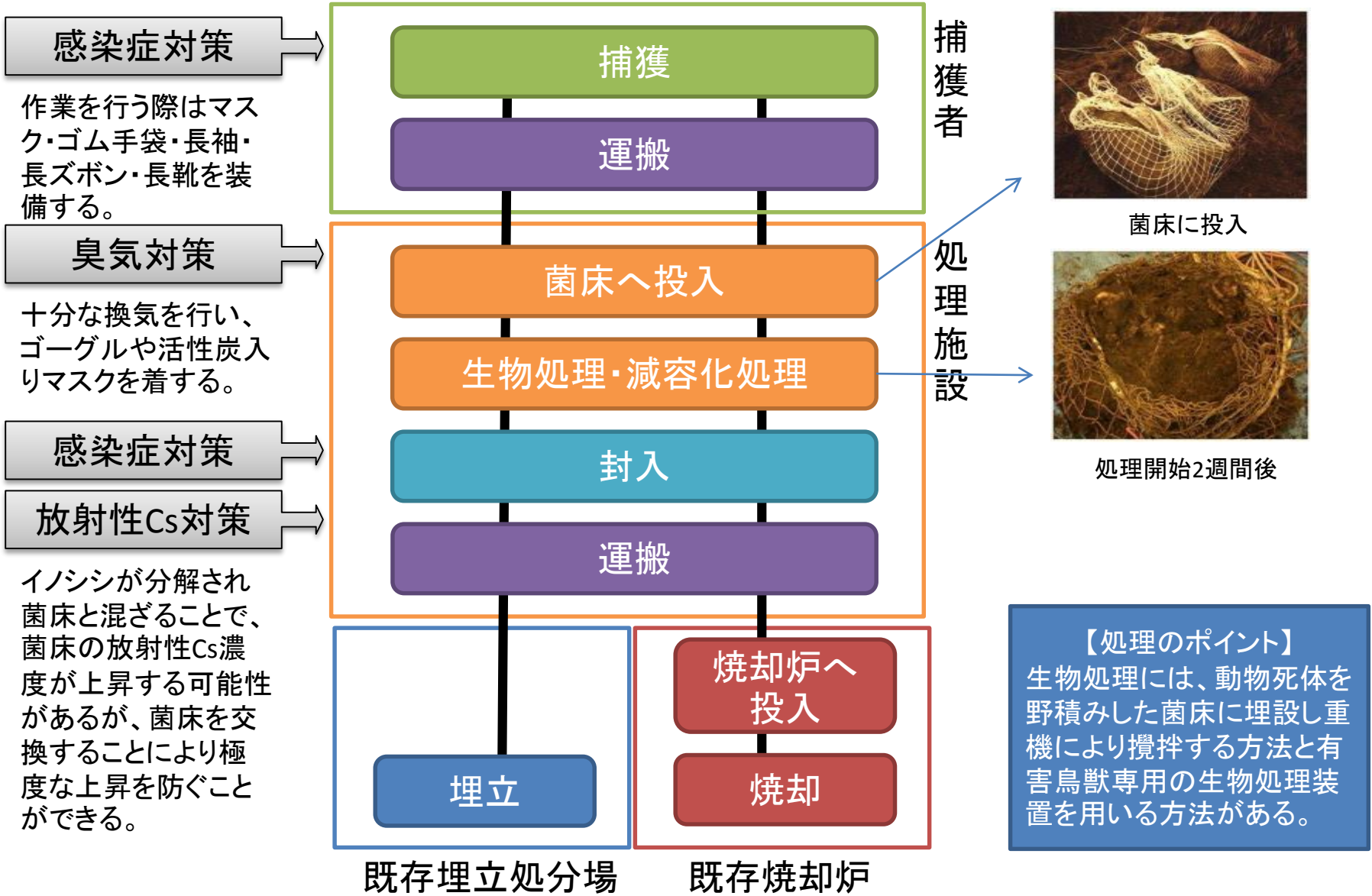


既設の切断機

既存焼却炉

**【処理のポイント】**  
施設ごとに捕獲イノシシの受け入れ基準が設定されていることが多いことから、搬入予定の既存焼却炉の受け入れ基準を確認し、基準に合致するように解体を行う必要がある。

## ②生物処理・減容化処理した残さの既存焼却炉又は埋立処分場への受け入れ



### ③専用焼却炉設置による処理

#### 感染症対策

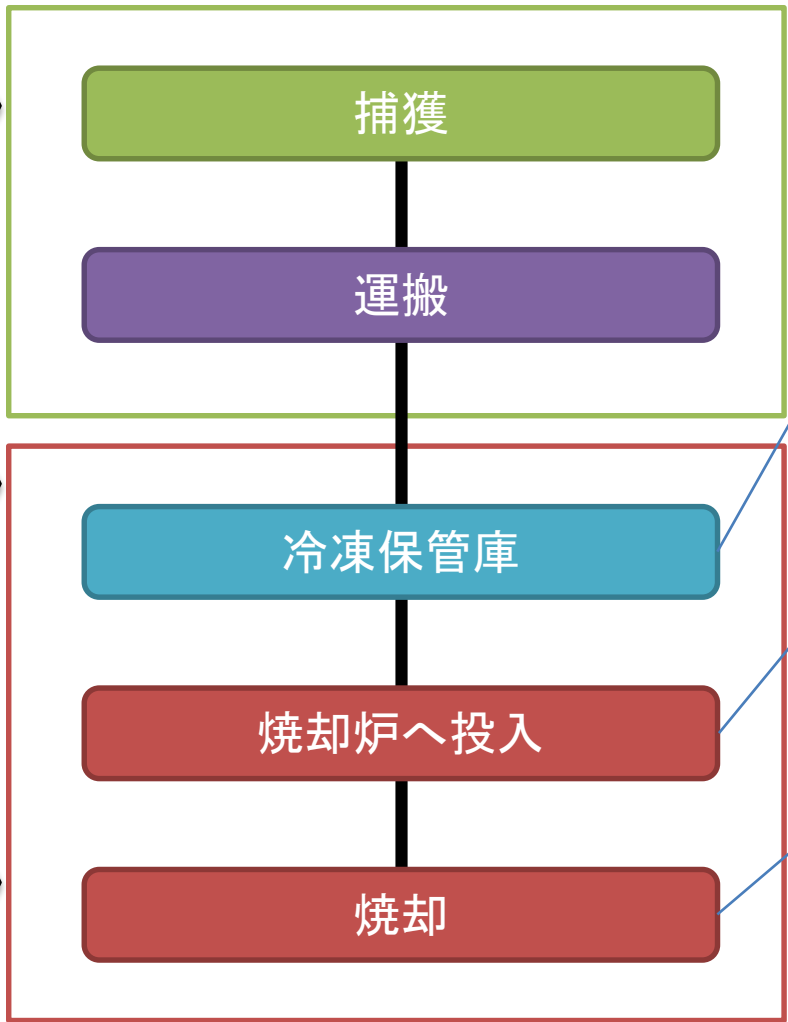
作業を行う際はマスク・ゴム手袋・長袖・長ズボン・長靴を装備する。

#### 放射性Cs対策

主灰は一般廃棄物として処理できる可能性が高いが、飛灰は8,000Bq/kg超の指定廃棄物となる可能性が高い。

#### 鉛対策

イノシシが含有する鉛弾は主灰及び飛灰への鉛濃度へ寄与するため、留意が必要である。



捕獲者

専用焼却炉



冷凍保管庫で保管



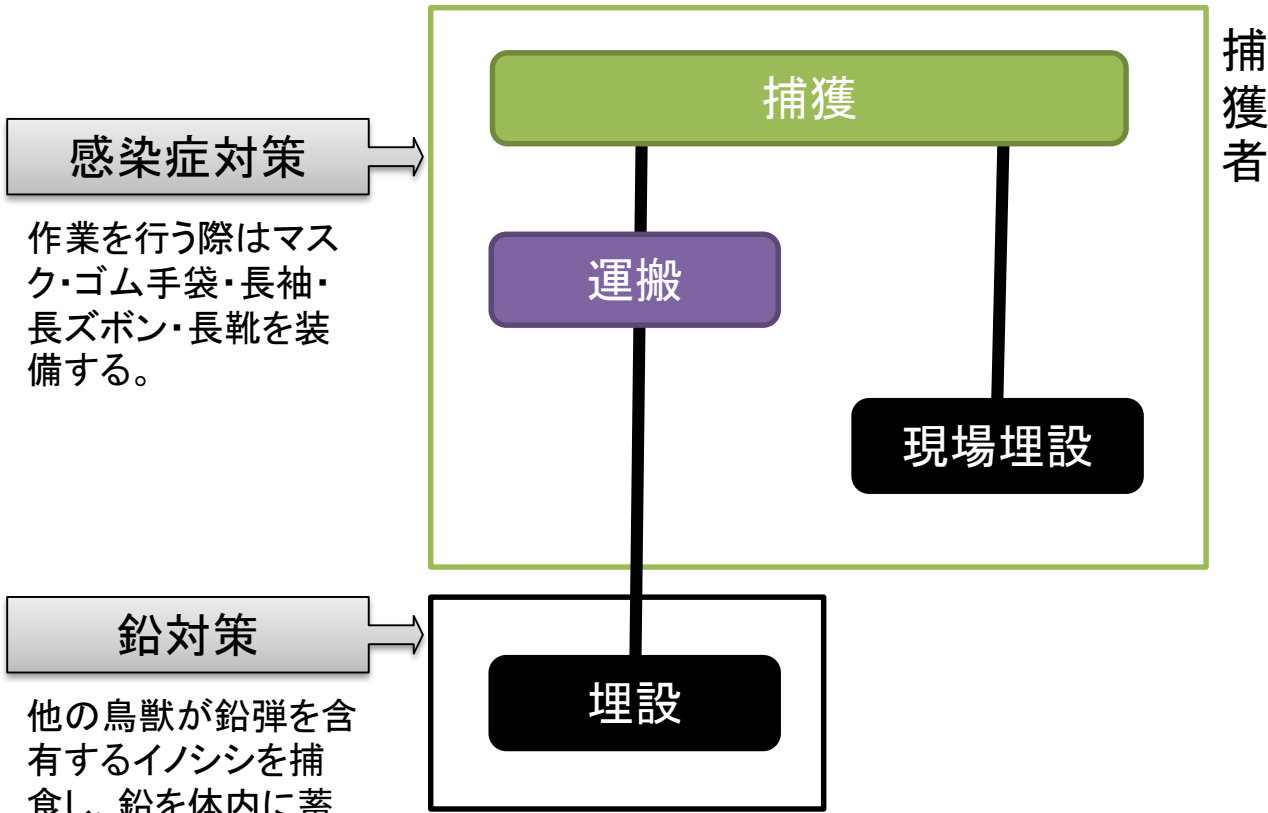
投入台へ設置



焼却

**【処理のポイント】**  
 冷凍保管庫を併設ない場合は、搬入してから焼却を行うまで時間が空き、腐敗することのないよう、搬入量の調整等が必要である。

### ④捕獲現場等での埋設処理



**感染症対策**

作業を行う際はマスク・ゴム手袋・長袖・長ズボン・長靴を装備する。

**鉛対策**

他の鳥獣が鉛弾を含むイノシシを捕食し、鉛を体内に蓄えてしまい鉛中毒を起す等、生態系や環境に影響を及ぼす可能性があるため、十分注意する。

**【処理のポイント】**

鳥獣基本指針においては、やむを得ない場合に限り、生態系に影響を与えないような適切な方法で埋設処理を行うことが認められている。なお、捕獲物等の埋設により、生活環境保全上支障が生じ、あるいは生ずるおそれがあると認められる場合は、廃棄物処理法に規定する措置命令の対象となる可能性があるため、十分に配慮する必要がある。